

四 半 期 報 告 書

(第120期 第3四半期)

自 平成24年10月1日
至 平成24年12月31日

西 部 瓦 斯 株 式 会 社

E 0 4 5 2 3

目 次

	頁
表 紙	1
第一部 企業情報	
第1 企業の概況	
1 主要な経営指標等の推移	2
2 事業の内容	2
第2 事業の状況	
1 事業等のリスク	3
2 経営上の重要な契約等	3
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	3
第3 提出会社の状況	
1 株式等の状況	
(1) 株式の総数等	4
(2) 新株予約権等の状況	4
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	4
(4) ライツプランの内容	4
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	4
(6) 大株主の状況	4
(7) 議決権の状況	5
2 役員の状況	5
第4 経理の状況	6
1 四半期連結財務諸表	
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	
四半期連結損益計算書	9
四半期連結包括利益計算書	10
2 その他	14
第二部 提出会社の保証会社等の情報	15

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年2月13日
【四半期会計期間】	第120期第3四半期（自平成24年10月1日至平成24年12月31日）
【会社名】	西部瓦斯株式会社
【英訳名】	SAIBU GAS CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 田中 優次
【本店の所在の場所】	福岡市博多区千代一丁目17番1号
【電話番号】	092-633-2245
【事務連絡者氏名】	経理部 主計グループ マネジャー 野崎 恵造
【最寄りの連絡場所】	東京都港区虎ノ門一丁目15番12号 日本ガス協会ビル2階 西部瓦斯株式会社 東京事務所
【電話番号】	03-3508-1796
【事務連絡者氏名】	理事 東京事務所長 岡安 賢二
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号） 証券会員制法人福岡証券取引所 （福岡市中央区天神二丁目14番2号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第119期 第3四半期 連結累計期間	第120期 第3四半期 連結累計期間	第119期
会計期間	自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日
売上高 (百万円)	116,334	125,620	171,605
経常利益 又は経常損失(△) (百万円)	△1,587	2,931	4,498
四半期(当期)純利益 又は四半期純損失(△) (百万円)	△3,226	377	1,459
四半期包括利益又は 包括利益 (百万円)	△2,841	600	2,301
純資産額 (百万円)	56,392	59,841	61,487
総資産額 (百万円)	279,018	292,358	283,059
1株当たり四半期(当期) 純利益金額又は1株当たり 四半期純損失金額(△) (円)	△8.69	1.02	3.93
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	19.5	19.9	21.1

回次	第119期 第3四半期 連結会計期間	第120期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日	自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日
1株当たり四半期 純利益金額又は1株当たり 四半期純損失金額(△) (円)	△4.66	4.24

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。
2. 売上高には、消費税等は含まれていない。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はない。また、主要な関係会社における異動もない。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はない。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はない。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間の連結売上高は、大口需要の稼働増加及び新規獲得等によるガス販売量の増加や原料費調整制度に基づくガス料金単価の上方調整の影響等によりガス売上が増加したこと等によって、125,620百万円（前年同期比9,286百万円 8.0%増）となった。

一方、営業費用は、原油価格の高騰等による都市ガス原材料費の増加等によって売上原価が増加したことから、122,800百万円（前年同期比4,681百万円 4.0%増）となった。

この結果、営業利益は2,819百万円（前年同期は営業損失1,784百万円）、経常利益は2,931百万円（前年同期は経常損失1,587百万円）となった。また、四半期純利益は、投資有価証券評価損を特別損失に計上したこと等により、377百万円（前年同期は四半期純損失3,226百万円）となった。

セグメントの業績は、次のとおりである。

なお、下記のセグメント別売上高及びセグメント損益には、セグメント間の内部取引に係る金額を含んでいない。

① ガス

当第3四半期連結累計期間の都市ガス販売については、家庭用ガス販売量が、10月～12月の気温が低めに推移したこと等から、前年同期に比べ1.0%増加し、業務用ガス販売量についても、大口需要の稼働増加及び新規獲得等の影響によって、前年同期に比べ2.0%増加した。また、卸供給ガス販売量については、卸供給先の需要減によって、前年同期に比べ2.2%減少した。その結果、都市ガス販売量は、前年同期に比べ1.4%増加の612,558千 m^3 となった。

以上のような都市ガス販売量の結果と原料費調整制度に基づくガス料金単価の上方調整の影響等によって売上高は93,497百万円（前年同期比7,793百万円 9.1%増）となり、セグメント利益は1,026百万円（前年同期はセグメント損失1,870百万円）となった。

② L P G

卸販売量の減少等により売上高は14,913百万円（前年同期比388百万円 2.5%減）、セグメント損益は54百万円の損失（前年同期はセグメント損失205百万円）となった。

③ 不動産

売上高は6,468百万円（前年同期比30百万円 0.5%増）、セグメント利益は1,681百万円（前年同期比82百万円 5.1%増）となった。

④ その他

L N G（液化天然ガス）販売量の増加等により売上高は21,326百万円（前年同期比698百万円 3.4%増）、セグメント利益は741百万円（前年同期はセグメント損失750百万円）となった。

（注）当社は平成23年10月1日からお客さまに供給するガスの標準熱量を46.04655MJ（メガジュール）/ m^3 から45MJ/ m^3 に変更している。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はない。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における研究開発費の総額は287百万円である。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はない。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	800,000,000
計	800,000,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	371,875,676	371,875,676	東京証券取引所 (市場第一部) 大阪証券取引所 (市場第一部) 福岡証券取引所	単元株式数 1,000株
計	371,875,676	371,875,676	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はない。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はない。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はない。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年10月1日～ 平成24年12月31日	—	371,875,676	—	20,629	—	5,695

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はない。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしている。

① 【発行済株式】

平成24年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	(自己保有株式) 普通株式 616,000 (相互保有株式) 普通株式 1,000	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 370,237,000	370,237	—
単元未満株式	普通株式 1,021,676	—	—
発行済株式総数	371,875,676	—	—
総株主の議決権	—	370,237	—

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式365株及び当社所有の自己株式90株が含まれている。

② 【自己株式等】

平成24年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合 (%)
(自己保有株式) 西部瓦斯株式会社	福岡市博多区 千代一丁目17-1	615,000	—	615,000	0.16
(相互保有株式) 株式会社インターライフ	熊本市中央区 萩原町12-16	1,000	—	1,000	0.00
計	—	616,000	—	616,000	0.16

(注) 上記のほか、株主名簿上は当社名義となっているが、実質的に所有していない株式が1,000株ある。
なお、当該株式は上記①「発行済株式」の「完全議決権株式（自己保有株式）」の中に含まれている。
当第3四半期会計期間末日現在の自己名義所有株式数は、641,251株である。

2 【役員】の状況】

該当事項はない。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）及び「ガス事業会計規則」（昭和29年通商産業省令第15号）に基づいて作成している。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けている。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
固定資産		
有形固定資産		
製造設備	32,401	26,596
供給設備	62,903	60,107
業務設備	6,013	10,770
その他の設備	71,707	70,355
建設仮勘定	21,381	36,521
有形固定資産合計	194,405	204,352
無形固定資産		
のれん	275	237
その他無形固定資産	7,099	6,219
無形固定資産合計	7,375	6,456
投資その他の資産		
投資有価証券	25,572	24,713
長期貸付金	4,868	4,492
繰延税金資産	3,776	3,564
その他投資	3,798	3,642
貸倒引当金	△387	△345
投資その他の資産合計	37,628	36,066
固定資産合計	239,409	246,875
流動資産		
現金及び預金	9,279	8,511
受取手形及び売掛金	19,305	19,207
有価証券	170	200
商品及び製品	1,682	2,024
仕掛品	2,455	3,390
原材料及び貯蔵品	3,617	3,925
繰延税金資産	1,478	1,487
その他流動資産	5,874	6,975
貸倒引当金	△214	△240
流動資産合計	43,649	45,483
資産合計	283,059	292,358

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
固定負債		
社債	30,000	30,000
長期借入金	100,248	114,649
繰延税金負債	49	49
退職給付引当金	4,161	4,476
ガスホルダー修繕引当金	644	643
資産除去債務	32	32
負ののれん	108	61
その他固定負債	8,308	8,233
固定負債合計	143,551	158,146
流動負債		
1年以内に期限到来の固定負債	14,988	12,075
支払手形及び買掛金	11,743	11,808
短期借入金	35,943	32,050
未払法人税等	2,341	1,087
役員賞与引当金	85	41
その他流動負債	12,917	17,307
流動負債合計	78,020	74,370
負債合計	221,571	232,516
純資産の部		
株主資本		
資本金	20,629	20,629
資本剰余金	5,804	5,804
利益剰余金	32,009	30,159
自己株式	△141	△148
株主資本合計	58,302	56,445
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,329	1,627
繰延ヘッジ損益	1	—
その他の包括利益累計額合計	1,330	1,627
少数株主持分	1,854	1,769
純資産合計	61,487	59,841
負債純資産合計	283,059	292,358

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
売上高	116,334	125,620
売上原価	67,366	72,989
売上総利益	48,967	52,630
供給販売費及び一般管理費	50,752	49,810
営業利益又は営業損失 (△)	△1,784	2,819
営業外収益		
受取利息	51	59
受取配当金	398	404
負ののれん償却額	46	46
持分法による投資利益	226	132
雑賃貸料	421	405
雑収入	848	760
営業外収益合計	1,991	1,808
営業外費用		
支払利息	1,427	1,356
雑支出	367	339
営業外費用合計	1,794	1,696
経常利益又は経常損失 (△)	△1,587	2,931
特別利益		
投資有価証券売却益	—	132
特別利益合計	—	132
特別損失		
投資有価証券評価損	1,195	1,225
特別損失合計	1,195	1,225
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失 (△)	△2,782	1,839
法人税等	477	1,535
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	△3,259	303
少数株主損失 (△)	△33	△73
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	△3,226	377

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失 (△)	△3,259	303
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	177	305
繰延ヘッジ損益	240	△1
持分法適用会社に対する持分相当額	0	△6
その他の包括利益合計	417	296
四半期包括利益	△2,841	600
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△2,809	674
少数株主に係る四半期包括利益	△32	△73

【会計方針の変更等】

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び一部の連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更している。

これにより、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ84百万円増加している。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算している。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

社債の債務履行引受契約に係る偶発債務は、次のとおりである。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
第7回無担保社債	10,000百万円	10,000百万円

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

当社グループの売上高は、ガス事業のウエイトが高いため、冬期を中心とした期間に多く計上されるという季節の変動がある。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していない。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりである。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
減価償却費	13,351百万円	12,250百万円

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月28日 定時株主総会	普通株式	1,485	4.00	平成23年3月31日	平成23年6月29日	利益剰余金
平成23年10月31日 取締役会	普通株式	1,113	3.00	平成23年9月30日	平成23年12月1日	利益剰余金

II 当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月27日 定時株主総会	普通株式	1,113	3.00	平成24年3月31日	平成24年6月28日	利益剰余金
平成24年10月29日 取締役会	普通株式	1,113	3.00	平成24年9月30日	平成24年11月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	ガス	L P G	不動産	計				
売上高								
外部顧客への売上高	84,826	12,456	3,688	100,970	15,363	116,334	—	116,334
セグメント間の内部 売上高又は振替高	877	2,844	2,750	6,473	5,265	11,738	△11,738	—
計	85,704	15,301	6,438	107,444	20,628	128,072	△11,738	116,334
セグメント利益又は セグメント損失(△)	△1,870	△205	1,599	△476	△750	△1,227	△557	△1,784

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報処理事業、飲食店事業、熱供給事業等を含んでいる。

2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△557百万円には、セグメント間取引消去又は振替高198百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△755百万円が含まれている。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費である。

3. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産にかかる重要な減損損失)

該当事項はない。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はない。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はない。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	ガス	L P G	不動産	計				
売上高								
外部顧客への売上高	92,502	12,849	3,718	109,070	16,549	125,620	—	125,620
セグメント間の内部 売上高又は振替高	994	2,064	2,750	5,809	4,776	10,585	△10,585	—
計	93,497	14,913	6,468	114,879	21,326	136,206	△10,585	125,620
セグメント利益又は セグメント損失(△)	1,026	△54	1,681	2,652	741	3,394	△574	2,819

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報処理事業、飲食店事業、熱供給事業等を含んでいる。

2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△574百万円には、セグメント間取引消去又は振替高167百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△741百万円が含まれている。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費である。

3. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産にかかる重要な減損損失)

該当事項はない。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はない。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はない。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更している。

この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べ、当第3四半期連結累計期間のセグメント利益が、「ガス」セグメントで81百万円、「LPG」セグメントで2百万円増加している。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり 四半期純損失金額(△)	△8円69銭	1円2銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額(△) (百万円)	△3,226	377
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期 純損失金額(△)(百万円)	△3,226	377
普通株式の期中平均株式数(千株)	371,315	371,259

(注) 前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載していない。
当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

(重要な後発事象)

該当事項はない。

2【その他】

平成24年10月29日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議した。

1. 配当金の総額 1,113百万円
2. 1株当たりの金額 3円
3. 支払請求の効力発生日及び支払開始日 平成24年11月30日

(注) 平成24年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行う。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月12日

西部瓦斯株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小 淵 輝 生 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松 嶋 敦 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 上 田 知 範 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている西部瓦斯株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、西部瓦斯株式会社及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管している。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていない。